

職場体験をしたことはありますか?その時に初めて「働く」ということについて考えた人もいるでしょう。

働くなんでまだまだ先だし、目の前のテストや部活で精一杯だよっていう人もいるかもしれないけれど、今から考えておくことは、悪くないと思うよ。

今回は、「働く」ということについて、真正面から考えてみたいと思います。

働くって、仕事って一体何なんだ!?



職業体験

『ウンダーカンマー ここは魅惑の博物館』
桎崎茜/著 上路ナオ子/画 理論社 Y913

特に希望を出したわけでもなく、博物館に職場体験先が決まった5人の中学生達。理科が得意なわけでもなく不安を抱えていたが、5人は魚類、古脊椎、鳥類、哺乳類、無生物…それぞれ別の仕事を任されることになる。

魅力的な博物館の世界の扉を開いた彼らは、一日の体験を通じて、新たな発見をしながら成長していく。(担当I)

『職場体験学習に行ってきました。』シリーズ
全国中学校進路指導連絡協議会/監修
学研教育出版 Y366

職場体験で、もっとたくさんの仕事をやってみたいと、好奇心がいっぱいのあなたには、全15冊あるこのシリーズがオススメ!どんな仕事をするか、仕事の1日のスケジュール、将来その仕事につくためのポイントなどが、中学生の体験を通して学べます。アンテナを張って、色々な仕事の良さを知っていきましょう。(担当I)

働く第一歩!アルバイト

『靴を売るシンデレラ』
ジョン・バウアー/著 灰島かり/訳 小学館 Y933

高校生のジェナは、靴屋でのアルバイトが大好きだ。客のニーズをすばやく察知し、その人にぴったりの靴を売ることに誇りを持っていた。そんなジェナの才能を認めた靴屋のオーナーは、ジェナをひと夏の間、運転手として雇うと言い出した!

オーナーと共に各地の支店を巡る中で、会社の未来を揺るがす事態が起きていることを知ったジェナは…?

自分の仕事に誇りを持つって素晴らしい。働くことが楽しみになる本。(担当0)

働くってどういうこと?

『14歳からの仕事道』
玄田有史/著
100%ORANGE・及川賢治/装画・挿画
イースト・プレス Y366

「自分のやりたいことをみつけなさい」って、言われたことありませんか?すぐに見つかればいいけれど、そんなに簡単に見つかるものじゃないよね。この本は、そんな悩めるあなたの救世主かも!?

やりたいことがないことは、不幸じゃない。個性や専門性なんて、簡単には身につかない。悩んで、もがいて、そしてちょっといいかげんに生きていく、そうすれば、あなたの「仕事道」がきっと見えてくる。(担当0)

『あたらしい働く理由をみつけよう』
日本ドリームプロジェクト/編
いろは出版 Y366

人は何のために働くのだろう?生きていくためにお金は絶対に必要だ。でも、大人が働く理由は、どうやらお金のためだけじゃないみたい…?

銀行員、商社マン、靴磨き職人、バスガイド…36人の働く大人たちが、自分の仕事について熱く語る。そしてそこから、36人それぞれの働く理由が見えてくる。

(担当0)

進路を考える＝生き方を考える

『農業高校へ行こう!』

全国農業高等学校長協会／監修
家の光協会 Y376

全国の農業高校の活動を紹介した学校ガイド。花を植えて街をきれいにする、地域の特産品をつくる、農業の国際的な認証を取得するなど…

読んだら、その活動の幅広さに驚くはず。農業に少しでも興味がある人はこの本で、より具体的に自分のやりたいことがイメージできます。(担当 I)

『闘え!高専ロボコン ロボットにける青春』

萱原正嗣／著 児ル野栄司／イラスト
ベストセラーズ Y548

「高専ロボコン」とは、工業や通信などを専門的に学ぶ高等専門学生達が、ロボットを作り、ルール内で競い合う大会。毎年変わる多様なルールに、学生達は試行錯誤しながらも、全国一を目指して、ロボットを作っていく。限られた時間、お金、ルールの中で、より良いものを作っていくことは、まさに社会に出た時にも求められること。

未来の日本の科学技術を支える若者達の熱い闘いを体感できる本。(担当 I)

『理系という生き方』

東工大講義 生涯を賭けるテーマをいかに選ぶか』
最相 葉月／著 ポプラ社 Y402

ノーベル賞受賞者など、第一線で活躍する科学者は、自分が研究するテーマとどう出会ったのか?

様々な分野の研究者の生涯を、インタビュー等をしながら明らかにしていく。ワクチンの開発、放射能の研究、人間の脳や心についての研究など、多くの分野で、科学者達の地道な努力が、現在に活きている。

偉大な先人の生涯を学び、自分の取り組むテーマのヒントにしていこう。(担当 I)

仕事をのぞいてみる

『あなたは何で食べてますか?』

有北雅彦／著
太郎次郎社工ディタス Y366

え、それ仕事?!と目からウロコ。登場するのは物語屋・珍スポットラベラー等々の想像もつかない食べ方(生き方)をする諸先輩方。

どんな仕事?やりがいは?やっぱり気になる収入は?自分の引出しの1つにどうぞ。(担当 T)

『ニッポンの刑事たち』

小川泰平／著 講談社 Y317

刑事と言えば、名推理で難事件を解決!というカッコいい姿はドラマの中の世界らしい。

実際は、地道な上、チームワークが基本!相棒の右京さんやルパン三世の銭形警部などを例に比較して書かれ、彼らのぶっ飛び具合がわかっておもしろい!ニッポンの刑事に敬礼!(担当 T)

自分の「好き」を仕事にしちゃいました!

『15歳のコーヒー屋さん』

発達障害のほくができることから
ほくにしかできないことへ』
岩野響／著 KADOKAWA Y289

私にしかできないことって何だろう、と自問自答しながら働いている私。感心しちゃいます。

自分のよさって何だろう?もちろん、自分と向き合うことが大切だけど、たくさんの人と関わっていくことで見えてくるんだな、ということがわかる。ヒントをもらおう。

(担当 T)

『宇宙を撮りたい、風船で。』

岩谷圭介／著 キノブックス 746

「世界一小さい宇宙開発」それは、百均グッズからスタート。遠い存在の宇宙が身近に感じられる本だ。

1つのことをやり遂げるには、想定外の事態が多い。失敗は誰でも心が折れるものだけれども、確実にクリアしていく強さに脱帽!

本を読んで、夢に向かってがむしゃらに進んでいくことの疑似体験をどうぞ。

(担当 T)

編集後記

中高生のころ、自分はちゃんと働けるのかなってちょっと不安でした。でも、気が付けばもう何年も働いていて…あの頃の自分に「元気に働いているよ」って言ってあげたい。(担当 O)

文系の私にとっては、理工系や農業の学校の本は「こんなことまで学校でやるんだ!」と驚くことが多かったです。人生が何回もあれば、色々な学校に入学してみたいですね。(担当 I)

働く＝お金+「何か」を得ると考えると、その重要度は人によって違い、その「何か」も自分で見つけていくのだと思う。何を大切にしていくなか。時間をかけて見つけてね。(担当 T)